

会 議 録

会議名	令和7年度第2回東浦町食育推進委員会	
開催日時	令和7年7月15日（火） 午後2時00分から午後3時45分	
開催場所	東浦町勤労福祉会館 会議室1	
出席者	委員	石川恭央氏、林佑亮氏、水野善久氏、山崎紀恵子氏、青山侑未氏、柴田裕子氏、田島由美子氏、間瀬千恵子氏
	事務局	丸山健康課成人保健係長、園田健康課成人保健係主査、大岩商工農政課農政係主事、鶴島商工農政課農政係主事、小田商工農政課商工労政係長、鈴木商工農政課商工労政係主事
欠席者	太田江美氏、水野雅宣氏、水野商工農政課農政係長	
議題等	1 今後の朝食啓発事業について 2 グルぐるキャンペーンについて 3 令和7年度食育体験プログラムのアンケートについて 4 その他	
傍聴者の数	0名	
審議内容	◆事務局 ・傍聴人の報告 ・配布資料確認 ・会議の成立 要綱第6条第2項に基づき、委員の2分の1以上が出席していることから、会議の成立を報告。 ・あいさつ ・委員長挨拶 以降は、委員長が議事を取りまわす。 （議題1）今後の朝食啓発事業について ◆事務局 資料1に沿って、第2期東浦町いきいき健康プラン21に係るアンケート調査の結果報告及び今後の課題を説明する。 アンケート調査の結果、「朝食を食べるか」という質問について、男性は20歳代、女性は10～20歳代で「毎日食べている」と	

回答した者の割合が少ない。理由として「必要を感じない」「お腹が空かない」「時間がない」が多い。成人期で「毎日食べている」と回答した人は、目標値の 85.0%に達していない。結果を踏まえ、今後朝食の啓発について段階をもって開発活動を行うこととした。また、前回会議で出た3つの意見について、朝食に係るテーマや、「おから」や「摘果ぶどう」の代わりとなる食材の案を募った。

◇委員

朝食を食べない理由について、どの年代層の回答か。

◆事務局

年代での区分けはなく、全体の回答者のうち「朝食をほとんど食べない」と回答した方の理由である。

◇委員

食べない理由を年代別で明確にしないと解析できない。食べない理由として「必要を感じない」が一番多いが、できるなら食べた方がいいと感じている人が多いのではないかと。それらの人に対しては、朝食の必要性を伝えていくことで欠食を改善できると思われる。また、20代から30代は「忙しい」「時間がない」「疲れている」が主な理由だと思うので、時短で簡単に食べられるような朝食をお勧めできるといいのではないかと。アンケートをさらに深掘りすれば、解決方法など具体的な案が出ると思う。

◇委員

10代より前の世代にはアンケートをとっていないのか。母親が子育てしている間は朝食を食べているが、10代以降になると減ってきていると思う。10代になってから遅くまで起きていたり、塾で生活リズムが乱れたり、生活が食事に反映されている。解決するには朝食がいかに大切かを水野先生に聞いてもらい、認識してもらうのが大切ではないか。

◇委員

朝食を食べてはいるが、パンやお茶だけなど、たんぱく質やカルシウムが足りていないことがあるとテレビで知った。食べることによる効果や、朝食をおいしく食べるために何をしたらいいか等、内容的なものに踏み込めると役に立つのではないかと。

◇委員

元々朝食を食べない人が朝食を食べ始めたことで太ったという話を聞いた。急に朝食を食べ始めることで太ったり、調子が悪くなる人もいるので、朝食の始め方や改善の仕方など、食べてな

い人に対する切り口もあるといいのではないか。

◇委員

アンケートの人数が足りないのではないか。

◆事務局

いきいき健康プラン 21 のアンケート対象者 2 千人のうち、回答者は 642 人で全体の 30～40% だった。その回答者のうち、「ほとんど食べない」と回答した人は 6～7% だった。アンケートの母数が少ないため、改めて朝食についての部分だけアンケートをとる方法や、もう少し分析ができるようなアンケート作りを健闘していく。しかし、無作為抽出のため、なかなか回答いただけないことも課題であり、行政としてもどのようにアンケートをとるべきかという課題もある。

◇委員

回答数が欲しいなら、企業や団体、町の職員等にアンケートをとるといいのではないか。無作為だと回答者が意識の高い人に偏るので実践してほしい。

朝食の啓発について、まず朝食がいかに重要かを知らしめていくことが一歩ではないか。なぜ食べるといいのか、どう作用して自分に利益があるのかを周知することで、栄養バランスや自分に合った食事の量が自分の中で生まれていくと思う。また、なぜ自分の朝食はこうなのか、どのような影響があるのかなど、他の人の朝食に係わる話を身近な人に聞くと親しみやすいのではないか。実際の朝食例を特集して、アドバイスをもらうのも面白いのではないか。

◇委員

成長期の子どもたちの栄養の大切さを、親がもっと認識してほしい。栄養バランスが悪いとどのような弊害が出るのか、食べ物の食べ合わせによる効果など、プロの知識を親に教えてほしい。

◇委員

必要を感じていない人に対し朝食について説いても、入口からスルーされてしまうので、自分に当てはまることを示すと関心が湧くのではないか。SNS 発信やイベントの際にそこを意識するともっと知りたいと思ってもらえるのではないか。また、今食べている朝食をどう変えるとメリットがあるのか、段階的に知ってもらえば行動変容が起こりやすいのではないか。

朝食のテーマについて、自分の憧れている人の朝食などを知れると、もっと記事を読んでみようと思えるので、自分時間の充実

というテーマはいいと思う。

◇委員

テーマとは違うが、愛知県の文化であるモーニングサービスを活かし、喫茶店と一緒に何かやると面白いのではないかな。

◇委員

文化ではないが、自分の時間や自分の朝ごはんなど、何か自慢できる場や流れがあると、楽しそうにしている人を中心に自然と改善できるのではないかな。生活リズムは各々違うので、生活リズムが同じ人を知り、真似していく場所や道筋があるといいのではないかな。

◇委員

町公式 LINE に朝食のページを作れないかな。町公式 LINE で少しずつ周知していくと、他の年代も実践するのではないかな。

◇委員

昔は地元の人で飲食店に集まり、店員さんもお客さんも顔見知りという雰囲気があった。地域の人の憩いの場という切り口も面白いのではないかな。

◆事務局

たくさんの意見をもとに、町民に届くような啓発をまた考えていく。また、より身近な人の食事を知るため、町職員を対象に朝食のアンケートを実施していきたい。町職員だと 20 代から 60 代まで幅広い年代の意見を聞くことができる。また、既婚か未婚か、子供の有無、子育てを終えた後など、環境により喫食率は異なると思われるので、働く世代の生の声を調査し、また共有する。

（議題 2）ぐるぐるキャンペーンについて

◆事務局

資料 2 に沿って、今年度のぐるぐるキャンペーンの変更点、現状の課題、今後のスケジュールについて説明する。

今年度からの変更点として、新しく応募方法に町公式 LINE を追加。また、チラシの全戸配布は中止し、代わりに町公式 LINE やホームページなどのオンライン媒体を中心に PR を実施。

ひがしうら Re-Bone グルメ提供店舗拡大について、キャンペーン期間外の PR が難しく認知度が限定的であること、また、食材が「おから」と「摘果ぶどう」のため、店舗での新しいメニュー開発にハードルを感じ、通年で提供するメニューとしては難しいといった課題が挙げられる。店舗拡大に向け、「参加のハードル

を下げる仕組み作り」が必要。例えば、摘果ぶどうの試作時の無料配布を継続し初期負担を減らすことや、参加店舗側に「参加するメリット」を感じてもらえる PR 方法を考え、店舗ごとのプロモーションを後押しするアイデアなどを検討する。また、若い世代にも注目してもらえるよう、新たなジャンルの店舗とのコラボや、SNS などを活用した広報活動などを考える。

今後のスケジュールについて、7月からの「夏トク 2025」キャンペーン終了後、参加店舗を対象としたアンケートを行い、結果をもとに参加店舗へフィードバック、新規候補店舗の洗い出しや店舗拡大方法の詳細について、次回の会議で具体的なアイデアや意見を伺う。

◇委員

町公式 LINE からの応募は何回でも応募できるのか。不正に応募できてしまうのではないのか。

◆事務局

いつ来店したかを入力してもらう項目がある。また、幅広い方に LINE で応募してもらうことを目的としているため、まずは今回の方法でやってみて、次回以降どうするかを考えていきたい。

◇委員

摘果ぶどうとおから以外でひがしうら Re-Bone グルメの食材はあるのか。

◆事務局

存在していないため、食材を増やすなら皆さんと一緒に考える必要がある。現在のコンセプトが①東浦町に基づく②骨折予防③環境にいい、の三本柱となっているため、食材探しが難しければコンセプトを検討しなおす必要もある。

◇委員

おからは店舗に提供していないのか。

◆事務局

ひがしうら Re-Bone グルメを誕生させる際は、おからパウダーを提供していたが、現在は各店舗で入手してもらっている。また、摘果ぶどうは、試作用は町から提供しているが、本格的に始める店舗には、農家と直接やりとりをしてもらっている。

◇委員

摘果ぶどうについて、需要があればいつでも町から店舗へ試作用を提供できるのか。

◆事務局

毎年夏頃に町職員で摘果ぶどうを収穫しており、摘果ぶどうを試作で使いたい企業に対しては、冷凍保管しているものを渡している。毎年いくつかの企業に提供しているが、今のところ不足したことはない。

◇委員

参加店舗は増やしたいが、これ以上他の食材を増やしていいのか考えないといけない。朝食のメニューにおからや摘果ぶどうを持ち込むのは難しいのではないかと。今後考えておいてほしい。

◇委員

最初にひがしうら Re-Bone グルメの食材を「おから」と「摘果ぶどう」に決めるときの苦労や、なぜそこに至ったのかをわかった上で、その先を展開してほしい。

(議題3) 令和7年度食育体験プログラムのアンケートについて
◆事務局

資料3に沿って、令和7年度食育体験プログラムの事前アンケート集計結果及び当日アンケート内容について説明する。

7月8日の集計時点では、「体験をどこで知ったか」について、広報、町公式 LINE が多く、2点を中心に周知をすすめてもよいと思われる。また、ひがしうら Re-Bone グルメの周知度について、「知っている」「内容は知らないが名前は聞いたことはあった」と答えた人は74%で、名前の周知は進んできたため、内容を届けるための取り組みや周知方法を考えていく必要がある。

当日アンケートについて、子どもたちを対象に実施予定。ひがしうら Re-Bone グルメの内容を知ってもらえるよう、事前に摘果ぶどうやおからのチラシを配布し説明することや、答えがおからや摘果ぶどうに繋がるクイズを作成した。

◇委員

保護者に対するアンケートは実施しないのか。

◆事務局

保護者に対するアンケートは申込時に実施しているため、当日は実施しない。

◇委員

アンケートに「前回も参加したか」という項目はあるか。昨年と同じ参加者なら、講義の内容や方向性を変える必要がある。

◇委員

前は摘果ぶどう、今回はおからに関するプログラムに参加し

ているなどがわかるといいのではないか。

◆事務局

次年度の参考にする。

(議題4) その他

緒川小学校3年生に向けたアンケート結果について

◆事務局

資料4に沿って、緒川小学校3年生に向けたアンケート結果について説明。

昨年度に引き続き、食べることにに関する知識や、現状の把握を目的に実施。朝食に関する項目「朝ごはんを食べているか」について、全体の約1割が「ときどき食べる」「食べない」と回答。

「東浦町ではぶどうが有名だが知っているか」に対し、66%が「はい」と回答。また、「東浦町で作ったぶどうを食べたことがあるか」に対し、半数が「いいえ」「未回答」であった。

「ひがしうら Re-Bone グルメについて知っているか」に対し、82%が「いいえ」と回答。

アンケート後に林委員によるぶどうの授業の実施や、毎月11日の学校給食でのひがしうら Re-Bone グルメの提供、校内放送でのPRなどを行ったため、2・3月に再度アンケートを実施して意識変化があるか報告する。

卯ノ里小学校の田植え体験について

◇委員

資料4-2に沿って、卯ノ里小学校の田植え体験について説明。

卯ノ里小学校の5年生の授業でお米作りを実施。田植えの他に、かかし立てや稲刈りを行い、最後に学習発表会を行っている。

町内保育園での取り組みについて

◆事務局

資料4-3に沿って、町内保育園での取り組みについて説明。

東浦町農業委員会とあいち知多農業協同組合で構成された「地域農業推進委員会」により、生路保育園と藤江保育園で収穫体験や種植え体験を実施。食育と地産地消に関する活動として、SNSで周知していく。

◇委員

	来年度以降食育関連の事業に予算をつけるために、実行委員ではどのように動けばいいか。例えば、令和9年度に向けて新しく事業を実施するために何が必要なのか、具体的な話を示してほしい。 ◆事務局 予算要求について、新しい事業に取り組むには順序だてて予算要求説明が必要なため、令和9年度に向けては9月くらいから委員の意見を取り入れて進めていくとよい。既存の予算から回せるものであれば、実施できる可能性はある。 ◇委員 次回の会議でアイデアの話ができるといいと思う。 閉会を宣言。
--	--